

2020年度 経営学部卒業時アンケート 択一回答のみ

調査対象：569名（2020年度9月卒業生31名、2020年度3月卒業生538名）

調査実施期間：2020年9月1日～9月15日、2021年3月3日～3月31日

回答者数：370名（2020年度9月12名、2020年度3月358名）

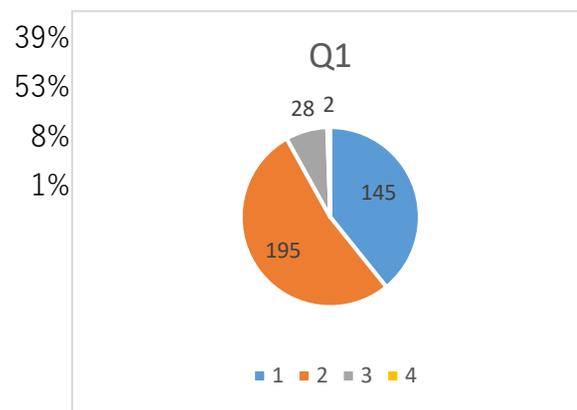
回答率：65.0%

以下の事項について、入学後の総合的な満足度をお答えください。

Q1

●学部の専門分野[講義科目]に関わる教育

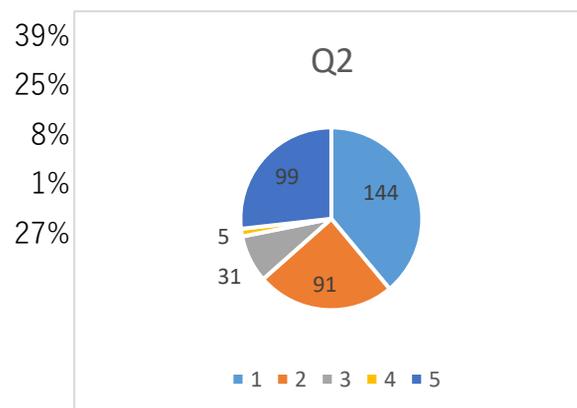
1. 満足	145
2. どちらかといえば満足	195
3. どちらかといえば不満	28
4. 不満	2
計	370



Q2

●ゼミ

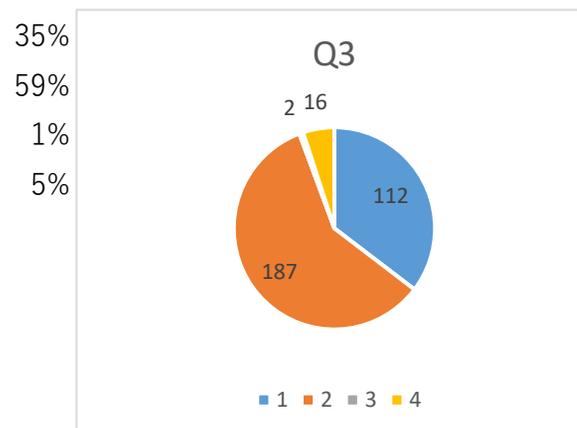
1. 満足	144
2. どちらかといえば満足	91
3. どちらかといえば不満	31
4. 不満	5
5. 未所属	99
計	370



Q3

●就職活動支援

1. 満足	112
2. どちらかといえば満足	187
3. どちらかといえば不満	2
4. 不満	16
計	317

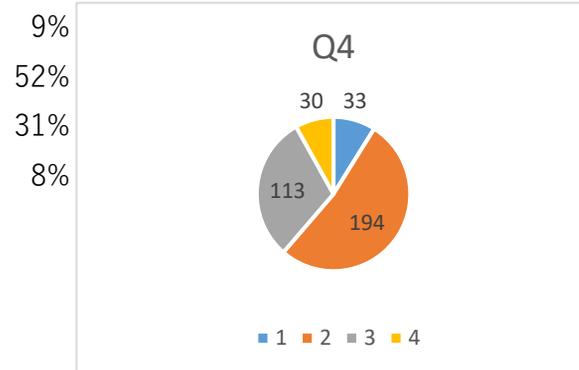


Q4

次にあげる能力について、大学入学時と比べてどの程度身についたと思いますか？

●教養と外国語について

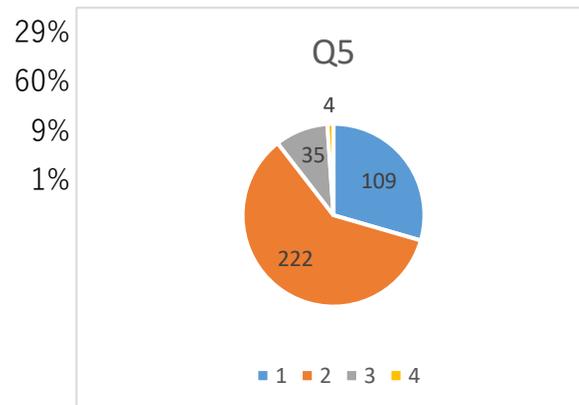
1. かなり身についた	33
2. ある程度身についた	194
3. あまり身につかなかった	113
4. 全く身につかなかった	30
計	370



Q5

●経営学・経営情報学・会計学・流通・マーケティングに関する専門知識 [講義科目]

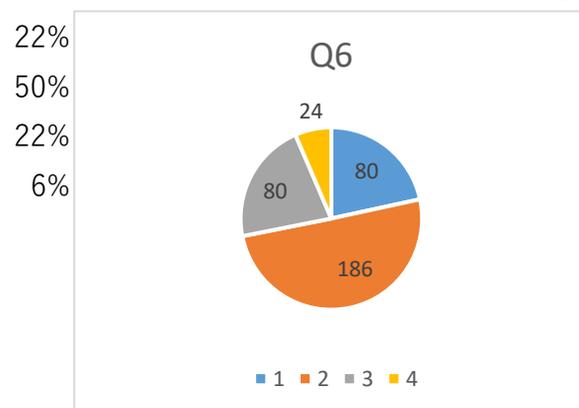
1. かなり身についた	109
2. ある程度身についた	222
3. あまり身につかなかった	35
4. 全く身につかなかった	4
計	370



Q6

●現代社会における諸問題あるいは様々な学術研究分野における諸問題を発見・分析・解決する実践的な知識・能力 [ゼミ]

1. かなり身についた	80
2. ある程度身についた	186
3. あまり身につかなかった	80
4. 全く身につかなかった。	24
計	370



【2020年度 経営学部卒業生アンケート結果からの分析】

2020年度の経営学部卒業生アンケート結果について、その概要と概括的な分析を試みたい。

まず、「入学後の総合的な満足度」として、「学部の専門分野[講義科目]に関わる教育(Q1)」、「ゼミ(Q2)」、「就職活動支援(Q3)」の各事項についての調査結果をみてみたい(有効回答数370名〈2020年度9月12名、2020年度3月358名〉)。

Q1 学部の専門分野[講義科目]に関わる教育(有効回答数370名)

当該項目では、「満足」が39%(145名)、「どちらかといえば満足」が53%(195名)、「どちらかといえば不満」が8%(28名)、「不満」が1%(2名)という結果となった。92%(340名)が「満足」「どちらかといえば満足」であり、昨年度同様、当該項目での満足度は高いといえる。

Q2 ゼミ(有効回答数370名)

当該項目では、「満足」が39%(144名)、「どちらかといえば満足」が25%(91名)、「どちらかといえば不満」が8%(31名)、「不満」が1%(5名)、「未所属」が27%(99名)という結果となった。ゼミ教育については、回答者の27%がゼミ未所属であり、ゼミ所属学生に限定したとき、「満足」は53%、「どちらかといえば満足」が34%となり、ゼミ所属生は総じて満足して卒業したと考えられる。未所属学生が4年次だけゼミ未所属なのか、2年次から卒業までゼミ未所属なのか不明であるが、2019年度の結果(ゼミ未所属27%)と同レベルにあり、今後も少しでもゼミ未所属を解消していく取り組みが検討事項としてあげられよう。

Q3 就職活動支援(有効回答数317名)

当該項目では、「満足」が35%(112名)、「どちらかといえば満足」が59%(187名)、「どちらかといえば不満」が1%(2名)、「不満」が5%(16名)という結果となった。94%(299名)が「満足」「どちらかといえば満足」であり、昨年度よりさらに良くなり、かなり満足度は高いといえる。また、「どちらかといえば不満」「不満」割合も昨年度の16%から今年度は6%と大幅に改善した。

次に、「教養と外国語(Q4)」、「経営学・経営情報学・会計学・流通・マーケティングに関する専門知識(Q5)」、「現代社会における諸問題あるいは様々な学術研究分野における諸問題を発見・分析・解決する実践的な知識・能力(Q6)」において、大学入学時と比べてどの程度身についたと思うかについての調査結果をみてみたい。

Q4 教養と外国語(有効回答数370名)

当該項目では、「かなり身についた」が9%(33名)、「ある程度身についた」が52%(194名)、「あまり身につかなかった」が31%(113名)、「全く身につかなかった」が8%(30名)という結果になった。総じて「身につかなかった」割合が大きいこともあり、さらなる取り組みが必要だと考えられる。

Q5 経営学・経営情報学・会計学・流通・マーケティングに関する専門知識[講義科目](有効回答数370名)

当該項目では、「かなり身についた」が29%(109名)、「ある程度身についた」が60%(222名)、「あまり身につかなかった」が9%(35名)、「全く身につかなかった」が1%(4名)という結果になった。「かなり・ある程度身についた」の割合が89%であり、十分な成果が得られたと考えられる。

Q6 現代社会における諸問題あるいは様々な学術研究分野における諸問題を発見・分析・解決する実践的な知識・能力[ゼミ](有効回答数370名)

当該項目では、「かなり身についた」が22%(80名)、「ある程度身についた」が50%(186名)、「あまり身につかなかった」が22%(80名)、「全く身につかなかった」が6%(24名)という結果になった。「かなり・ある程度身についた」の割合が72%であるが、ゼミなどによりある程度の成果が見られたと考えられる。

上記のように、2020年度の卒業生の満足度及び達成度に関する卒業時の意識としては、総じて高い評価が得られているといえる。今後の課題としては、教養と外国語に対する到達度をあげることや、それ以外でも高評価に満足することなく、高評価を維持しつつも、さらなる向上に努力を傾注していくことが肝要であろう。